

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503171		
法人名	陽気株式会社		
事業所名	グループホームようき法成寺一階		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2808-1 (電話) 084-949-3230		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503171-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>事業所目標を立て、目標達成に向け、チーム一丸となって取り組んでいること。また日々の職員との会話や職員同士の会話を大切に、個々の思いを皆で受け止め、直面している問題を勉強会や会議で検討し、チームで統一したケアを目指していること</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>池の傍の高台にある2階建て2ユニットの施設である。敷地内に事業所名を表す看板もなく、法人方針で地域に馴染む環境に配慮されている。法人理念『良かったを増やす』を下に、事業所として「まごころのこもった行動」・「介護支援技量向上」・「チームワーク力の向上」を年度目標としている。管理者は地域との密着に重点を置き、町内会へ加入し会合へ積極的に出席し、地域の一員として活動している。その活動で、運営推進会議に町内会長・組長・老人会長等の出席者が増加し、施設行事への地域住民参加の増加など、地域住民との協力関係の構築に成果を挙げている。職員は、利用者・家族の『良かったを増やす』取組みとして、勤務時に「まごころ振り返りシート」を活用し、目標を定め、日々の支援や行事などで、利用者・家族の発言や表情から思いを汲み取り、改善に向けて絶えず振り返りを行う等のサービス支援を実践している。</p>

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全職員が会社全体の理念を踏まえ、行っていきたい介護像について話し合い、地域の中で、より良く暮らせるよう事業所独自の目標を作成している。	法人理念『良かったを増やす』を下に、事業所として「まごころのこもった行動」・「介護支援技量向上」・「チームワーク力の向上」を年度目標としている。職員は、毎日まごころ振り返りシートに目標や気づきなど記入し、所定の回収ボックスに入れるシステムとなっている。日々の目標や気づきや振り返りを記入することで、法人理念の実現に向けた取り組みが、着実に成果を挙げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の挨拶を交わしている内、最近ではご近所の方から先に気付き、挨拶をしてくださる機会も増えてきた。野菜などを持ってきてくださる事もあり、交流する機会は安定してきている。	町内会に加入し、管理者は町内会の会合に積極的に出席していることで、町内会役員及び地域住民と親睦が深まっている。利用者が単独で外出した際も、地域住民から連絡を頂くなど、地域ぐるみで見守り支援の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	直接的に地域の高齢者の暮らしに役に立っているとはいえないが、運営推進会議を通じ、高齢者介護の理解を地域内へ促進している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で取り上げられた内容は、カンファレンスなどで報告し、職員全員で検討を行い、サービスの改善・向上に活かしている	運営推進会議当日に家族会を時間を分けて開催している。参加者は、家族を中心に町内役員、民生委員、近隣住民など、これまで参加して頂けなかった地域包括支援センター職員にも開催日を変更し、参加して頂いている。会議資料も運営に関して詳細に説明し、ヒヤリハット・事故報告もすべて開示され、原因と対応について説明がなされている。	日程調整で地域包括支援センター職員、地域役員が参加し、改善されているが、次のステップとして、市町職員の参加を実現され、今以上に、会議での充実した意見交換ができる取り組みを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する、介護保険事業所説明会などに積極的に参加し、サービス向上に努めている。	市町が主催の説明会や研修会に積極的に参加している。又、地域包括支援センターへ各種相談等を行い、行政と連携が図れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての勉強会は定期的に行っており、研修に参加する場合もある。学んだ内容をカンファレンスなどで発表し、職員全員で理解・認識し、ケアにつなげている。玄関の施錠は夜間のみ行っており、日中は開放している。</p>	<p>身体拘束に関しての家族同意書を取り、実施した事例はない。家族から利用者の転倒事故防止のため拘束容認の要望に対し、即日、身体拘束委員会を立ち上げ、拘束しない対応策について協議検討を重ね、利用者の尊厳を守ることを第一に、家族に説明し、納得して頂いている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会で学ぶ機会をもうけ、各職員に意識づけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>事業所の勉強会などで学ぶ機会をもうけている。未だ必要性はないが、今後は活用していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>細かく説明を行い、疑問があればその都度お聞きし、理解・納得して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置すると共に、面会時に何か要望や意見がないか聞いている。運営推進会議や家族会などで頂いた意見は、職員全員に報告し、改善している。</p>	<p>運営推進会議へは、多数の家族が参加され、積極的な意見交換がなされている。又、家族会は日程を分けて、1F・2Fの家族が参加し易い配慮がされている。その会議等での利用者・家族の発言を、運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談の際やカンファレンス、日々の関わりの中で、意見を聞く機会をもうけている。また、必要と思われる内容であれば、反映させている。	毎月2回、話し合いの場を持ち、個人の目標の進捗を通して、振り返りを行っている。日頃の気付きや行事の改善点など、豊富に提案され、運営業務の改善が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況や胸の内を語りやすいよう、日々の会話を大切にしている。定期的に面談や、必要に応じて話し合いを行う機会をつくり、改善しながら働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に行く機会を設けたり、事業所内や会社全体の研修を行うことで、職員のスキルアップを行っている。また、個人毎の教育計画をたて、達成に向けて推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の研修に参加したり、実習で知り合った同業者とのつながりを大切にし、サービスの質を向上させていけるよう努めている。また、相互研修へ参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人に、安心して日々過ごしていただけるよう、思いを汲み取ると共に、安心して胸のうちを話していただける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者と共に、ご家族に心から信頼していただけるよう、気軽に何でも言える雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーと連携を図り、その時必要なサービスを見極めていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者を人生の先輩として尊敬し、介護される一方の立場に置かず、一緒に生活するなかで、喜怒哀楽を共に感じあえる関係づくが築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の状態や気持ちに変化が合った場合は、面会時、又は電話などで報告し、ご本人との絆を大切にしながら、共に支えていく関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の馴染みの人や場所などを職員全体が把握し、面会時に談笑しやすい環境づくりや、外出時に馴染みのある場所へお連れしたりと、支援に努めている	利用者から、毎月の墓参りや百貨店での買物など、要望があれば対応している。利用者・家族から馴染みの場所を日頃から情報として収集し、外出プランを立て、出来る限り馴染みの場所へドライブに出掛けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係を把握し、気の合うご利用者同士が時間を共有できる環境づくりに努めている。うまくかかわることが難しいご利用者には、職員が傍に寄り添い、支えあえるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了されたご家族が、職員やご利用者に話しにこられたりと、良い関係が築けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いや暮らし方の希望・意向などを面会時に、ご家族から、日々の暮らしの中でご本人から聞き取り把握して、本人本位のケアに努めている。	職員は、日頃から利用者や家族からの思いや意向の把握に努めている。面会時や家族会での発言や表情から、思いを察するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの段階で確認を行い、その後も面会時に、ご家族、ご本人からお聞きしたことを記録に残し、全員で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の一日の過ごし方や心身状態などを、口頭や記録などで細かく残し、全員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族からお聞きし、全員で共有後、随時、介護計画を立てている。</p>	<p>利用者・家族と話し合いを行い、職員カンファレンスで仮介護計画を立案し、再度、利用者家族に説明を行い、本介護計画を作成している。6か月ごとに更新しているが、利用者の状態変化に対応出来るよう、随時、介護計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やケアの内容などを、細かく記録に残し、口頭でも情報を伝え合い、職員全員が情報を共有ながら、実践や介護計画書の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>随時、ご本人やご家族のニーズを把握し、理解し、全職員で前向きに検討し、支援、サービスを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>趣味や様々な活動に応じていけるよう、地域の行事に参加したり、ボランティアに来ていただいたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医及び、ご家族またはご本人が希望される専門の医療機関など、個々にとって、適切な医療をうけられるよう支援している。</p>	<p>利用開始時に、かかりつけ医について利用者・家族から要望を聴き、対応している。事業所の提携医は、毎週1回、往診がある。近隣の病院で、いつでも相談できる環境にある。かかりつけ専門医の受診同行も事業所で行い、家族に症状を連絡している。</p>	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内の看護師は、日々、観察を行っており、係りつけの医療機関の看護師とも日々、相談やアドバイスをいただきながら、連携をとって支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、度々面会に行き、状態の把握・病院関係者から情報収集を行ったり、ご家族と連絡を取り合いながら、情報の交換を行うなど、早期退院できるよう努めている。又、退院前には病院のカンファレンスにも参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	出来るだけ早い段階から、主治医、ご家族と連携を密にし、全員で取り組んでいくようにしている。	利用開始時に、終末期に向けた指針について利用者・家族に説明をしている。重度化になった場合、再三、家族及び提携医を交えて話し合いを行い、利用者の看取りに向けて、より良い支援が出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	一年に一回は訓練を行っている。そのほか、個々で講習会に参加するよう促したり、本で読んだり、それぞれ知識の向上に努めている。又、個々で勉強したことはカンファレンスで発表し、全員で情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練で行ったり、地域の方々へのご協力も頂けるよう、お願いしている	年2回の避難訓練を、地域の方の協力を得て実施している。消防署への通報訓練や消火訓練など、消防署からのアドバイスを受けながら行われている。	協力頂いてる住民の方は、訓練に参加しているが、実際に火災・災害時等でどのようなことをお願いするかが、明確になっていない。事業所の場所が池の傍で、事業所入口が急勾配になっている。実際の見守り支援の具体的な方法について、打ち合わせをされることを望みます。

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重し、職員全員で声掛けや対応などに注意している。事業所内での勉強会も行っており、カンファレンスなどで、対応の統一を行っている。	利用者の尊厳とプライバシーを守るため、勉強会や研修などで注意喚起を行っている。絶えず利用者の立場を意識し、声掛け等の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員主体にならないよう十分に気を配っている。伝わりにくい方には、選択できるような声掛けに変えたりと、出来るだけ本人に選択していただいたり、個々に合わせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務、職員の都合を優先せず、個々の生活ペースを大切にし、ご本人の希望に沿った一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型、服装など、ご本人に選択していただけるよう努めている。難しい方には、色の好みやその日の気温などをお伝えし、複数の中から選択していただいたり、個々にあわせて支援している。又、昔馴染みの理髪店などを希望される場合は、お連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物と一緒にいき、好物やその日に食べたいものをお聞きしている。又、メニューも一緒に考え、食事作りも手伝っていただきながら、食事が楽しみなものになるよう努めている。	食事のメニューは利用者の希望をお聴きして作成し、買物と一緒に出掛けている。食事の支度等出来る方にはお願いし、日常生活で役割を持って生活して頂いている。又、一部の利用者にキザミやミキサー食を提供しているが、食材を個々に調理して、見栄えと風味を活かした工夫で、食事を楽しんで頂ける工夫をしている。	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	毎日記録に残し、個々の平均値の把握も している。個々に応じた形で対応してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	個々にあわせた方法で口腔ケアを行って いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンや習慣を把握し、排 泄の失敗により、自尊心が傷つかない よう注意しながら，できるだけ自立した排 泄を行っていただけるよう支援してい る。	個々の排泄パターンを把握して、利用者 の表情等に気を配り、声掛けを行い、排 泄の失敗がないように、トイレ誘導を 行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	すぐに薬に頼ることはせず、腹部のマッ サージや食物繊維の含まれる食品を多く 献立に入れたり、エクストラバージンオ イルの使用や、牛乳や豆乳を飲んでい ただくなど、水分摂取の配慮などに努めて いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	希望のある方は、極力、希望通りに対 応している。訴えの少ない方も、曜日や時 間など職員の都合だけでなく、ご本人の 思いや体調を大切にしている。	1日3名ぐらい入浴をして頂いている。以 前は、入浴拒否の利用者がおられたが、 声掛け・順番を変えてみる等の方法の改 善で、職員がその方法を共有すること で、現在では入浴拒否の利用者はいな い。	

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決まっておらず、個々の希望される時に休んでいただいている。訴えない方は、表情を観察したり、声掛けを行い、ご本人が気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については、参考資料を置いたり、処方箋などで把握し、全職員で共有している。新しく処方された薬は、口頭や記録などに残し、全員が内容を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴をご家族、ご利用者から伺い、それらを活かせる環境づくりや、楽しめる時間を設け、気分転換をしていただけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の方の協力はお願いしていないが、ご本人の希望がある日、または天気の良い日には出かけている。遠方や個別になる場合は、ご家族と相談し、協力を得て行っている。買い物は全てご利用者と共に行っている。	日常的に天候の良い日は散歩に出掛けている。単独で散歩に出かけられる利用者は、見守りながら支援している。本人の希望がある場合は、家族の協力を得て、外出が実現できるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族、本人からのご希望のある方は所持して頂き、自由に使えるようにしていただいている。普段はお預かりしているが、買い物時に所持して頂き、一緒に買い物に行っている。		

自己評価	外部評価	《1階》 項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合は、自ら電話で話しをしていただいている。手紙は職員が投函し、安心していただけるよう、ご本人にお伝している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを飾ったり、四季を感じていただけるよう努めている。冷暖房器具の調節、カーテンの調整などに配慮している。常にご利用者の立場で考えている。	リビングは日当たりも良く、季節に応じて利用者と職員と一緒に作成した作品を展示し、季節感を感じてもらおう工夫をしている。調度品ソファ等は、利用者の動線に配慮して、配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	色々な場所に机や椅子を置いており、ご本人が過ごしやすい空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地の良い空間で過ごしていただけるよう、使い慣れたものや馴染みのある家具を、ご家族に持ってきて戴いている。	利用者の希望により、洋間を畳に変えたり、本人の生活動作に合わせた配慮がなされている。持ち込みは自由で、愛用の椅子や本棚等を持ち込まれる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	できることはしていただき、できないところは手伝わせてもらっている。ご本人が不快にならないよう注意し、自然な声掛けや、傍で見守りをさせていただき、トイレや居室などは、一目で分かるよう表示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームようき法成寺

作成日 H29年4月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	1Fと2Fでスタッフが固定されているため、協力しようと思っても難しいことがあり、一体感に欠けるため。	1Fと2Fが協力し、グループホームようき法成寺としての一体感を作る。	1Fと2Fでの相互研修(混合シフト実施)し、アンケート(感じた事、良かった点等)を実施する。その後、1Fと2Fでの業務(作業)の相違の洗い出し、および統一を図る。	計画を経て、1年間実施。 毎月管理者の確認。
2	2	現在の体制では、肺炎等でご利用者が入院し、退院時に喀痰吸引や胃ろうになった場合、受け入れが困難なため。	現在の体制では、肺炎等でご利用者が入院し、退院時に喀痰吸引や胃ろうになった場合、受け入れが困難なため。	喀痰吸引・胃ろうの研修及び実地研修参加。 看取りの事前資料作成およびカンファにて対応を確認する。	計画を経て、1年間実施。 毎月管理者の確認。
3	3	一日一日を意識することなく、何気なく過ごしてしまうことがあるため。また、日々の疲れや忙しさが意識していなくてもご利用者へ伝わってしまうことがあるため。	一日一日を意識することなく、何気なく過ごしてしまうことがあるため。また、日々の疲れや忙しさが意識していなくてもご利用者へ伝わってしまうことがあるため。	マインドフルネスを導入し、勤務時間内での振り返りシート(こころリセットシート)記入・提出(朝/夕こころリセット・気付き)する。また、毎月気付き等の共有・勤務の改善を図る。	計画を経て、1年間実施。 毎月管理者の確認。
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。